

そなえあれば  
うれいなし

# 西淀 防災 Times

Vol. 9 令和4年 2月 1日発行

## ★防災教育へのご協力ありがとうございました！！★

1月13日に実施した防災教育、アンケートへのご協力ありがとうございました。本校では初となる防災教育の時間を設けて実施しましたが、実施して良かったというご意見たくさん頂きました。児童生徒にとって実りある時間だったと思います。別紙には、先生方のご意見のほかにも「Ⅰ・Ⅱ類型対象防災教育振り返りシート」のアンケート部分を掲載しています。児童生徒たちの素直なご意見を是非、ご覧ください。

さて、いきなりですが災害から命を守る一番シンプルな対策は何でしょうか？答えは、、、**「避難する」**ということです。簡単なように思えますが、同調圧力が働き周りに合わせて行動したくなるのが人間です。避難について釜石市では2005年より各学校で防災教育を熱心に取り組んできました。その甲斐あって、東日本大震災では無事に避難することができ、とくに釜石東中学校の生徒達の行動は**「釜石の奇跡」**と呼ばれています。ここには**「避難3原則」**という教えがありました。

### 原則1：想定にとられるな

防災教育で子どもたちがまず教えられたのは「想定にとられるな」ということでした。学校や役所等でハザードマップを配られた子どもたちは、「うちは危険区域から外れているからセーフ」「君の家はアウトだ」と言いながら一喜一憂します。しかし、自宅が津波の浸水想定区域から外れていたからと言って安全とは限りません。ハザードマップに示されている通りに津波が来るとは限らず、東日本大震災では想定外の大津波がやってきました。与えられた想定にとられることなく行動を起こしたからこそ、彼らは助かったのです。

### 原則2：その状況下で最善を尽くせ

東日本大震災、激しい揺れがおさまった後、生徒たちが「津波がくるぞ！逃げろ！」と大声で叫びながら校舎に向かいました。無事に子どもたちは避難先に指定されていたグループホームに到着しました。しかし、津波の様子を見た子どもたちが、点呼を取っていた先生に「ここじゃだめだ」と進言し、さらに高台にある介護福祉施設に避難をすることを進言しました。再度避難をする途中、近隣の保育園から園児を避難させるのを手伝い、また中学生のそのような様子を見た近隣の住民もそれにつられて避難を開始しました。無事に全員が介護福祉施設に辿り着いたわずか30秒後に津波は施設の目前まで迫りました。このときの津波は釜石東中学校と鶴住居小学校の屋上をはるか超えて、最初に避難したグループホームにも3メートルの高さを超える津波が押し寄せていました。

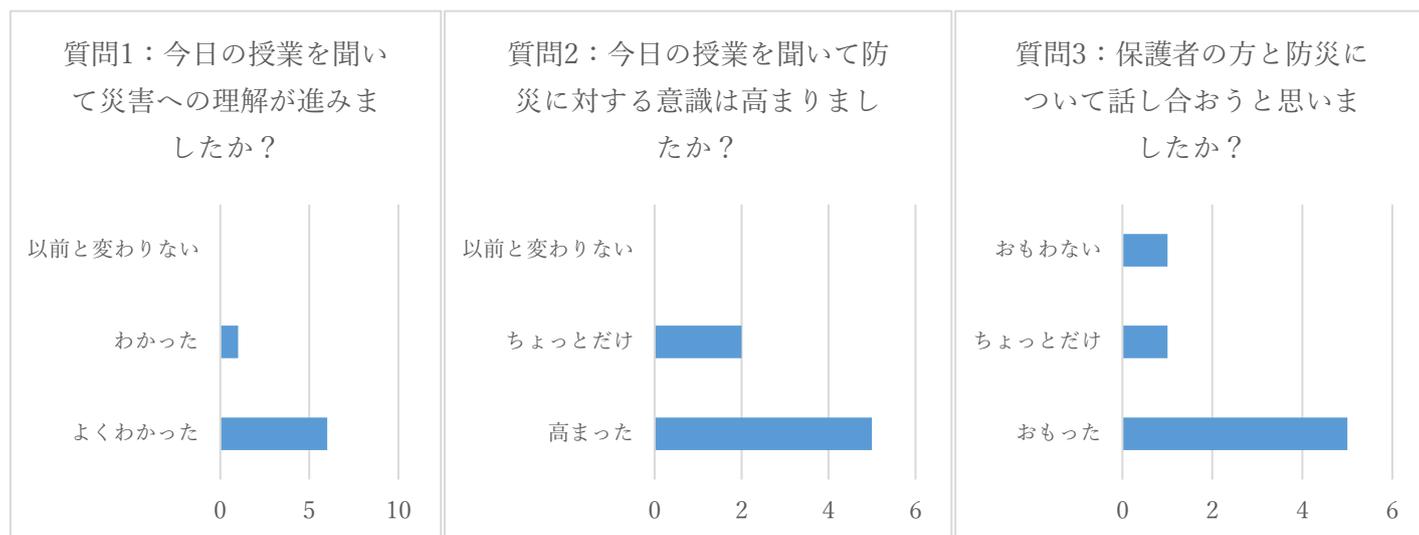
### 原則3：率先避難者たれ

「ここでは大きな災害が起きないだろう」、「自分のところは大丈夫だろう」と自分に都合の良い解釈をして、その場に留まってしまうことがほとんどです。津波の場合、避難を躊躇していたら、あっという間に津波の犠牲になってしまいます。自分が「率先避難者」になることで、周囲もそれに同調して避難をするようになります。釜石東中学校の事例では、中学生が率先避難者として避難を開始したことで、周囲の住民も避難を行いました。率先避難者となった子どもたちは周りの大人たちも救ったのです。その決断によって自分の命も周りの命も救うことがあります。

「釜石の奇跡」  
避難3原則



## 防災教育アンケート調査 生徒(計7名)



- 船が流れている映像が怖かった。南海トラフが起きても何とか乗り越えられそうです。
- 改めて地震の怖さを知れたのでこれからもっと防災意識が高まりました。
- 津波が怖いけど頑張って逃げようと思いました。
- 南海トラフについて難しかったです。
- 地震が起きても心を安定させて避難する。
- 大きな地震がきたら自分の身を守りながら冷静に行動しようと思いました。
- 津波の映像や防災食を食べて、災害の食べ物など、知らないことも知れて良かった。

「I・II類型対象 防災教育振り返りシート」より

## 防災教育アンケート調査 教職員(計16名)

Q1：今後の防災教育について、あなたが授業される場合、今回の指導内容以外にどのようなことを児童生徒に指導したいですか？

- 要点を絞り、とにかく逃げることを重点に伝えたいです。
- 子どもの発達段階にもよるが、備蓄食を食べることだけでも防災教育になると思います。(あと、年数回の訓練と)年に2～3回くらい給食で食べる機会を設けて、万が一に備えることはできないでしょうか？急に慣れていないものを食べるのは難しいと思います。
- 頭を守るのに、マットで守ることは難しい(大きい・重いので)一人ずつヘルメットがあるとすぐに守れると思ったので、あれば使用したいです。
- 今回の内容で良いと思いました。ありがとうございました。
- 揺れを感じたりする活動
- 防災袋の中身を考える。
- 机の下にもぐるは基本的にできない子どもたちなので実際にはどうするのか？
- 実際に被災を体験した人が感じることを伝えられたらいいかなと思います。
- 教材があれば、人形劇などの立体(津波模型など)のものが見てわかりやすいかと思います。
- 災害が学校で発生した場合、家で発生した場合、外出先で、と場合分けのシチュエーションを示す。
- 地震体験車など体験できる活動があったほうがわかりやすいのかなと感じた。小1～3だと話ばかりだと集中力

がもたなかった。

- ・日頃からの備え、家庭での非常袋について
  - ・避難は、友だちと先生と一緒にすること、家の人を迎えに来るまで先生たちと一緒にいること（友だちや先生がいるので心配しなくてもいいよ）
  - ・アラームや頭を守るということが含まれていたのが良かったと思います。時間があれば、動ける子には自分で頭を守る動き、動けない子たちはマットをかぶるといったことを実際にやってもいいかもしれませんね。
- すごく怖いことだけど、怖がらず落ち着いて、慌てずに、過ごすことが大事というのは繰り返しで伝えたいです。
- ・皿類の児童に防災という概念は獲得されていない。避難訓練のような内容になると思う。今回の物は何を教えたかったのか見えにくかった。

⇒次年度は、各学年で防災教育を行う予定としています。上記の内容をもとに実態に応じて授業展開を各自考えておいてください。

## Q2：備蓄食の喫食について、児童生徒の反応はどうでしたか？

- ・スムーズに食べることができていたので、それを知ることができてよかったです。平常時に食べることできないものを非常時に食べるのは困難なので今回のように食べる機会があるといいですね。
- ・よかった。
- ・おいしそうに食べている生徒もいれば、口に合わない生徒もいたが備蓄食の必要性を理解している生徒は食べようとしていた。
- ・少し味が濃いのか不思議そうに味わっていたが、食べていると慣れて、美味しそうな様子だった。
- ・味が濃くなじみのない食感だったせいかわよく味わっている様子が見られた。
- ・特に嫌がる様子はなかったです。
- ・日頃、普通食の児童生徒はあまり口にしない印象です。
- ・不安そうでしたが、食べてみるとおいしかったようで、よく食べホッとしたようでした。喫食してみるのも大切ですね。
- ・ペースト食を喫食している生徒が、無理なく口で取り込めていたので、いいなと思う。
- ・「意外に食べやすい」と言って1袋完食していました。
- ・とても美味しそうに食べていました。持ち運びにもいいサイズですね。
- ・とてもおいしいと本学年の児童は全員完食していました。
- ・普通食の生徒はペースト食は食べることに慣れていないのか苦手そうだった。食べてない子もいた。
- ・給食の時間外だったので食べたがらなかった。
- ・おいしく食べていました。
- ・食べなかった。

⇒比較的、食べることができていたように思えます。経管栄養を使用している児童生徒はそのまま持ち帰りとなりましたが、そのまま注入が可能かなども含めて確認してみてください。

## Q3：実際に被災した場合に、西淀工場もしくは津波が引いた後の学校に戻り、防災食を食べることになりますが、今回児童生徒が持参したスプーン以外に必要なものはありましたか？

紙皿 ・ ラップ ・ 長期保存できる水 ・ エプロン ・ 手拭き ・ 紙コップ ・ ティッシュ  
ラップ ・ お湯 ・ お皿（おわん） ・ ウェットティッシュ ・ カイロ ・ カセットコンロ  
とろみ剤 ・ レインコート ・ 着替え ・ タオル ・ 薬 ・ ビニール袋

⇒児童生徒の持参している非常用避難袋を学年で確認し、その避難袋に入れておいたほうがいいものを保護者に伝えてください。（とろみ剤等）学校全体で準備が必要なものは、防災係でPTAと相談のもと、毎年少しずつ準備しています。詳しくは、「防犯及び防災計画」でご確認ください。